東山盆踊り80年

伝統の灯 次代へ（下）

継承

開催へ 熱い思い共有

会津若松市のオフィスビルの一室。東山盆踊りの打ち合わせを重ねる関係者を前に、東山温泉観光協会長の平賀茂美さん(69)が言葉に力を込めた。「盆踊りの再開を機に、東山温泉にもう一度活気を呼び込もう」

新型コロナ禍を経ての5年ぶり開催に課題は少なくない。劣化したちょうちんなどの新調に多額の費用を要するが、新型コロナ禍からの回復途上の地域経済を鑑みれば資金調達は簡単ではない。長期中止で落ち込んだ機運を再燃するには工夫も求められる。

打開策の一つとして導入したのがクラウドファンディングだ。開催への熱い思いを共有してもらうことで、支援金を集めると同時に関心を高める狙いがある。芸妓（げいぎ）衆の協力を得ながら、支援を呼びかけている。

新たな試みは、平賀さんをトップとする東山温泉未来創生会議から生まれている。旅館や観光団体、市内に進出したIT企業の関係者、若手芸妓らでつくり、復活の〝エンジン〟役を担う。マルシェなど、若い世代に訴求する企画も練る。

観光協会のアンケートでは8割近くの会員が「盆踊りを続けてほしい」と答えた。会議のメンバーで温泉地内の老舗和菓子店「松本家」の一条あずささん(35)は「(再出発する)盆踊りをきっかけに、東山温泉に来たい、活性化に携わりたいと思う人が増えればうれしい」と意気込む。

疎開児童を励まそうと始まった東山盆踊り。児童が住んでいた東京都台東区との交流や市内の子どもへの踊り講習、訪日客誘致など今後の構想は尽きない。平賀さんは「日本一の盆踊りへ、新たな一歩にしたい」と未来を見据える。

東山盆踊りのこれからの在り方などを模索する東山温泉未来創生会議

―CFで支援呼びかけ―

東山盆踊りは8月1日から4日まで会津若松市東山温泉で開かれる。実行委員会は7月22日までクラウドファンディング（CF）で支援を呼びかけている。問い合わせは東山温泉観光協会　電話0242(27)7051へ。

東山盆踊りCFのQRコード